HAPS | Annual Report 2018 東山 アーティスツ・プレイスメント・サービス事業報告書 2018年度

HAPS

Annual Report 2018 東山 アーティスツ・プレイスメント・サービス 事業報告書 2018年度

HAPS

東山 アーティスツ・プレイスメント・サービス(HAPS)
〒605-0841 京都市東山区大和大路通五条上る
山崎町339 番地
339 Yamazaki-cho, Higashiyama-ku,
Kyoto 605-0841, JAPAN
TEL 075 525 7525 FAX 075 525 7522
E-MAIL info@haps-kyoto.com
http://haps-kyoto.com

HAPSの2018年度は、大きな変化の一年でした。共生社会への取組やアーティストへの仕事コーディネートなど、新しい事業がスタートないし本格化しています。これらはいずれも、旧来の文化芸術事業には収まらないものです。しかし私たちは、こういった挑戦こそがHAPSの意義だろうと考えています。芸術的な価値を「作る」こと、芸術的な価値を「受け取ること」、あるいはそれを「共有」したり「交換」したりすること。こういった行為のあり方は、未だ確定されておらず、あるいは確定されるべきではなく、まだまだ未知の可能性があります。この可能性にHAPSは賭けています。本報告書を通して、HAPSが果敢に取組んだ様々な挑戦を、少しでも感じていただければ幸いです。

遠藤水城
（HAPS実行委員長）

HAPS
Annual Report 2018

東山 アーティスツ・プレイスメント・サービス
事業報告書 2018年度

06 HAPSとは
13 主催事業
23 HAPSスタジオ
29 様々な取組
39 資料編

HAPS

HAPSとは

**アーティストと
アーティストを支える人のための、
よろず相談所です。**

設立の経緯

京都市は、「京都文化芸術都市創生条例」に基づき、具体的な指針として策定する「京都文化芸術都市創生計画」（2007年3月）において、「若手芸術家等の居住・制作・発表の場づくり」事業を計画しました。2009年4月から調査を開始し、事業のプランニングに着手。2011年9月、上記事業を主として実施する組織として、各分野の専門家で構成する「東山アーティスツ・プレイスメント・サービス実行委員会」が設立されました。HAPSは、その略称です（読み：ハップス）。

京都のアーティストの場づくり支援

この困難な時代に生きる芸術家たちを支えること。それは、「美術」という一つのジャンルを守ることではなく、私たちの社会全体の豊かさを維持し、さらに新しい可能性を開いていくことにつながります。多くの芸術家がそこに住まい、生活している街。あるいは逆に、そこで暮らしている人間が芸術家になりうる、芸術家でありうる街。切実な表現、独創的な作品、かけがえのない営為が多くの人に見られ、共有されている街。HAPS は、個人の生き方と社会のあり方を組み替え、文化芸術が最大限のポテンシャルを発揮できる環境を京都市に作り出すことを、その目標としています。

HAPSのミッション

① 芸術家支援
京都在住の芸術家たちの
居住・制作・発表を
包括的に支援する

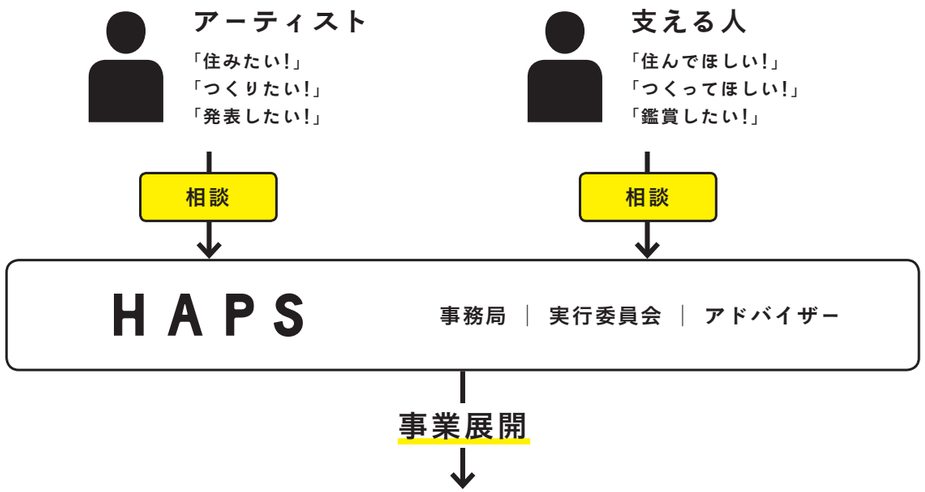
② 地域創造
芸術家たちの創造性を
京都市の活力へと繋ぐ

③ ネットワーク形成
国内外の芸術機関と
多様な協力体制を
構築する

④ イノベーション活動
新たな芸術のあり方と、
新たな社会を
共に探求する

HAPSの支援活動とは?

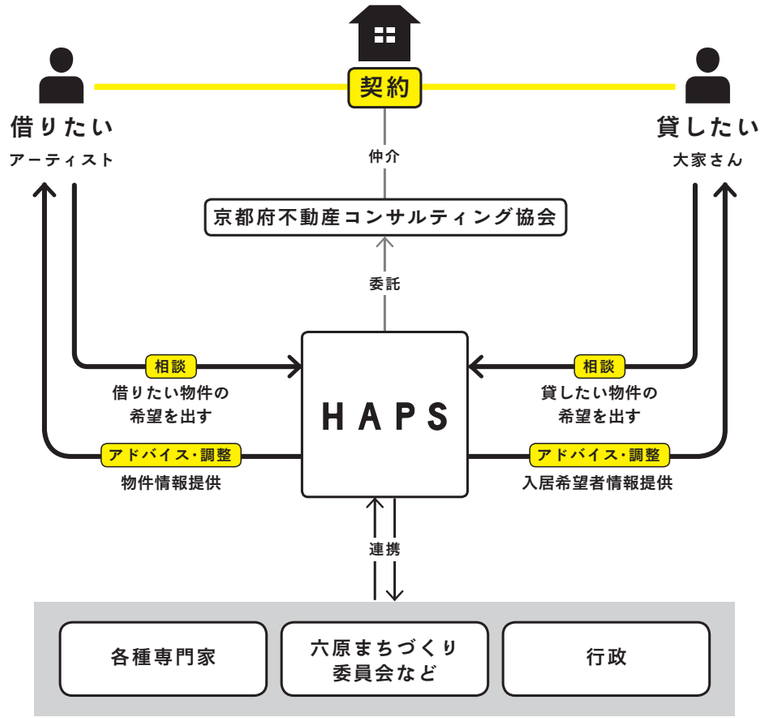
HAPSの活動は、相談があって初めて成り立ちます。
相談をきっかけに、様々な支援活動を展開しています。



物件マッチング	京都市で活動するアーティストには空き物件を、大家さんには入居希望のアーティストをマッチングします。制作・居住環境を探すアーティストの希望と、借り手を探す大家さんからの物件情報を集約し、両者の間をつなぎます。
キュレーター招聘	京都を拠点に制作活動を行う若手アーティストを紹介するために、国内外より第一線で活躍するキュレーターを招聘し、スタジオビジットやトークイベントなどのプログラムを開催します。この出会いを機に作家が企画展に呼ばれたり、国際的なアートシーンについて知るきっかけにもなります。
HAPS オフィス・スタジオ	HAPSオフィスには、小さな展示空間、集会所、中庭などがあり、事務所であると同時に、アーティストと彼らを支える人の交流を生む場所として、多数のプログラムを実施します。また、2011年に閉校した元新道小学校の6教室をアーティストのスタジオとして活用しています。
地域との取組	京都市内の行政や地域団体等の要請で、地域の行事や活性化のためにアーティストによるワークショップなどをコーディネートします。作家の仕事コーディネートや発表の場づくりにもつながります。例えば、右京区の京北地区での地域を走るコミュニティバスのラッピングや、まち歩きツアーなど、活動の幅はさまざまです。

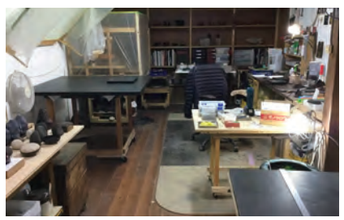
物件マッチング

京都市全域を対象に、大家さんから活用可能な物件の情報を受け付け、アトリエや住まいを探しているアーティストに物件を紹介しています。アーティストと大家さんの双方の要望に合致するようにマッチングを行っています。社会的に空き家問題への関心が高まっている中、HAPSでは、アーティストにしかできない方法での問題解決を提案しています。
また、HAPSが拠点を置く東山区六原地区では、地元有志と各専門家が連携し、空き家や防災等の問題に取組む「六原まちづくり委員会」に参加しています。



物件マッチング事例の今

物件名――福稲アトリエ(東山区)
用途――スタジオ
紹介時期――2015年



VOICE
石塚源太さん
アーティスト

2015年末にこの物件に引っ越してきました。HAPSにお願いし、いくつか物件を紹介していただき自分の条件と照らし合わせここに決めました。大家さんもものづくりを行っている人に貸したかったようでいいマッチングをしていただけたと思います。使い勝手もよく助かっています。

相談いろいろ

シルクスクリーン工房の情報発信をしたい

レジデンス機能がある福祉施設を構想しており、物件を探している

屋外で写真の展示をしたい

京都市内で1週間ほど滞在できるレジデンスを探している

購入したが改修する余裕のない物件があるので、現状で借りたい人がいれば紹介してほしい

賃貸物件をシェアスタジオとして貸したいので、条件などの相談にのってほしい

スウェーデンの音楽家が潜在制作できるスタジオを探している

京都で写真の展示をするスペースを探している

所有している長屋に空きが出たので、制作場所や倉庫に使ってほしい

スタジオ空き情報に掲載してほしい

実家が空き家になっているが、借りてくれるアーティストはいるか

点描を教えてくれる先生を紹介してほしい

アーティスト・イン・レジデンスの募集を掲載してほしい

グループ展でのトークに登壇してほしい

街灯やまちの灯りの届かない場所に移住をしたい

ホワイトキューブではない場所での展示がしたい

京都でどのように作品を見せていくかについて相談したい

英語の先生を紹介してほしい

映像の撮影に使える学校の教室を探している

裸足で踊れる広い部屋を探している

アーティストの個展をキュレーションしているが、その資金繰りを相談したい

公募展への応募にあたってアドバイスがほしい

ケルンで現地の作家とグループ展をするが、京都でもなんらかの形で発表したい

オープンスタジオの広報に協力してほしい

市営住宅の１階に作る店舗の内装を相談したい

アーティスト・イン・レジデンスについて知りたい

ニシンにまつわる作品制作のためのリサーチをしており、資料館などの情報が知りたい

海外での個展開催について相談したい

シェアスタジオの運営方法を見直したいので、他のスタジオの事例が知りたい

盆栽が置ける古民家を探している

コンクリートの土間がある空間を探している

自然が近くにあり、水が湧いているような、風情のある場所で生活しながら制作したい

京都大学近くで、稽古場と劇場を兼ねる物件を探している

作業音を気にしなくてもいい物件を探している

元床屋だった店舗スペースを制作場所や展示場所として使ってもらえないか

京都のスタジオ事情や助成金について知りたい

パフォーマンスの会場を探している

アーティストのトークが実施できる会場を探している

畑で野菜作りをしながら制作ができる場所を探している

HAPSのウェブサイトにある公募情報のページを紹介させてほしい

ペルーのアート教室でレクチャーをしてくれるアーティストを探している

所有しているマンションの管理人室を借りてくれる人を探している

社員が宿泊するための宿だった物件があり、アーティストに活用してもらいたい

ギャラリーを併設したカフェを経営している。作品の展示にギャラリーを使ってほしい

子ども向け文化体験の見学先について意見がほしい

展覧会の広報やデザインをお願いできるチームを紹介してほしい

新規にオープンしたギャラリーを展示スペース情報で紹介してほしい

京都にリサーチに来るアーティストに、京都のアーティストを紹介したい

食に関わるアーティストを紹介してほしい

児童館の先生に、目をひく広報誌やポスターの作り方を教えてほしい

日本のアートセンターを紹介するイベントでHAPSのことを紹介したい

ボランティア説明会の会場を探している

工房兼展示スペース兼住居として使える物件を探している

住居とスタジオ、店舗を兼ねられる物件を探している

伝統工芸品販売のための物件を探している

訪問介護事業についてのPRビデオを作成してほしい

購入したが使わないことになった物件を貸したい。アーティストが住んでくれたら楽しそう

使っていない町家を、住居または制作場所として使いたいアーティストを紹介してほしい

公募の情報を掲載してほしい

親が所有している空き家があるが、自分が改修する余裕がないので、現状で借りてくれる人がいないか

アパートメントホテルへの作品設置に協力してほしい

薪窯を屋外に設置できる物件を探している

相談&展開事例

**2018年度、HAPSに寄せられた相談から
展開した事例を紹介します。**

展覧会企画者である川久保ミオさんより資金、スペースの相談があり、「KYOTO ART HOSTEL kumagusuku」とマッチング。HAPS の協力展覧会として、ウェブサイトや SNS での広報にも協力しました。

清原遥 個展
「祈りの形に似ている」

会期：2018年9月11日（火）～23日（日）
会場：KYOTO ART HOSTEL kumagusuku

京都駅東南部エリアの新たなまちづくりに向けた機運の醸成等を図るため開催されたアートイベント「ひかりの広場」において、フードコーナーを運営した地域の NPO から依頼を受け、HAPS スタッフがブースのお手伝いとして参加しました。

「ひかりの広場」

会期：2018年11月23日（金・祝）～24日（土）
会場：北河原市営住宅跡地

地域の方々の発案で「ノガミッツ プロジェクト」（→ P32）の参加アーティストの山本麻紀子さんが京都国際映画祭に出品していた作品の「巨人の歯」を、「東九条のぞみの園」のクリスマス会でお披露目しました。当日は「希望の家カトリック保育園」の園長がサンタ姿で登場。施設長や職員と一緒に、利用者の方々へ巨人の歯にふれる体験を「プレゼント」しました。

「のぞみの園クリスマス会」

開催日：2018年12月24日（月）
会場：東九条のぞみの園

**2018年度、HAPSが主催した
事業を紹介します。**

主催事業

キュレーター招聘／OUR SCHOOL／ALLNIGHT HAPS／
アーティスト×仕事／HAPSウェブサイト／HAPS PRESS

主催事業1

キュレーター招聘

アーティストと
国内外のキュレーターをつなぐ。

近年、展覧会などの企画を行うキュレーターの存在が注目を集めています。しかし、多くのアーティストにとって、キュレーターと直接対話し、知見を交わす機会は限られています。HAPSでは、そのような機会を定期的に提供。国内外のキュレーターが京都のアーティストを知り、京都のアーティストが企画者の求めるものを知る。そこから具体的な展覧会やイベントに発展した事例も生まれています。

VOICE

Photo by Elsa Ruiz

2018年度招聘キュレーター

手塚美和子

アメリカ｜荒川修作＋マドリン・ギンズ Reversible Destiny Foundation 顧問キュレーター、ポンジャ現懇・共同主宰

限られた時間の中で多くのアーティストに会い、制作中の作品を実際に拝見しながら直接いろいろとお話をうかがうことのできる機会をいただき、京都滞在が大変充実したものとなりました。様々なメディアでの表現の多様性、それぞれの方の個性も、まとまった時間内に次々にみなさんにお会いできたからこそ印象深く感じられたのだと思います。公開レクチャーでは、日本ではまだそれほど語られることのないアメリカ国内におけるアーティスト・ファウンデーションの組織や活動の特徴性についていくつか例をあげながらご紹介する機会をいただきました。今後日本でも戦後世代のアーティストのレガシー作りが長期的視野から真剣に考えなおされるべき時にきていると思います。貴重な機会をいただけたことに深く感謝しています。

2018年度招聘キュレーター

サスキア・ボス

オランダ｜美術史家、インディペンデント・キュレーター、批評家

シュレヤス・カルレ

インド｜ヴィジュアル・プラクティショナー／CONA財団・KATCONA Design Cell共同ディレクター

主催事業2

OUR SCHOOL

みんなで学ぶ、教える、
共有する。

HAPSでは、あらゆる人に開かれた学校「OUR SCHOOL」を開校しています。場所は、HAPSオフィスの1階。誰もが生徒にも先生にもなれ、知識や経験、技術を共有していく開放された学校を目指しています。「生きるために表現すること」と「生きることが表現であること」。このふたつを自由に往復することが私たちの生存につながります。

事例1

報告会 @ HAPS カオス*ラウンジ新芸術祭2017 市街劇「百五〇年の孤独」

日時：2018年4月28日（土）18：00〜19：40
会場：HAPSオフィス1階
企画・報告者：小栢可愛（アーティスト）
ゲスト：亀山隆彦（仏教研究者・新芸術祭2017リサーチャー）

2017 年に福島県いわき市で開催されたアーティスト主導で行う地域芸術祭「カオス * ラウンジ新芸術祭 2017 市街劇『百五〇年の孤独』」の報告会が行われました。

事例2

トーク「コミュニティ・アーカイブをつくろう！」

日時：2018年9月27日（木）19：00〜21：00
会場：HAPSオフィス1階
主催：京都市立芸術大学芸術資源研究センター
登壇者：甲斐賢治（せんだいメディアテーク アーティスティック・ディレクター）、
北野央（公益財団法人仙台市市民文化事業団主事）、
佐藤知久（京都市立芸術大学芸術資源研究センター専任研究員／准教授）

『コミュニティ・アーカイブをつくろう！せんだいメディアテーク「3 がつ 11 にちをわすれないためにセンター」奮闘記』（晶文社）の著者 3 名によるトークイベントが開催されました。

主催事業3

ALLNIGHT HAPS

**2名の企画者による、
オフィスでの夜通しの展覧会。**

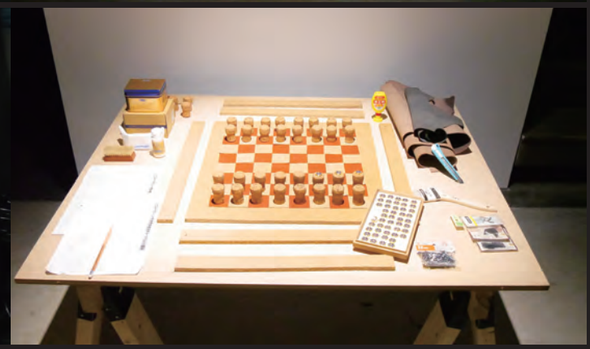
若手アーティストの発表を支援するとともに、若手キュレーター養成を目的として、オフィスの玄関を小さな展示空間として、夜6時から朝9時半までの夜間に活用しています。毎年２名のキュレーターに依頼し、年に2つの企画で開催する展覧会です。2018年度は前期に批評家の黒嵜想さん、後期にはアーティストの谷澤紗和子さんによる企画展を開催しました。

前期「呼び出し、交換」 企画：黒嵜想

前期#1　蕗野幸樹

前期#2　奥祐司

前期#3　岡田真太郎



後期「信仰」 企画：谷澤紗和子

後期#1　碓井ゆい

後期#2　温田山

後期#3　谷澤紗和子×藤野可織

ALLNIGHT HAPS

2018前期　企画:黒嵜想

「呼び出し、交換」

批評誌『アーギュメンツ』をはじめとした独自の形態で批評活動を展開する企画者が、現代の情報流通において不可視のものとなりつつある「取次」の機能に目を向け、自身の活動を通じて発見した「取次者」である３名の作家を紹介しました。

#1 蕗野幸樹　2018年7月31日(火)〜8月24日(金)

クロージングトーク「取次」(黒嵜想)
2018年8月24日(金)

#2 奥祐司　2018年9月7日(金)〜9月29日(土)

関連企画 黒嵜想&奥祐司
クロージングパーティー
「kitchen」
2018年9月28日(金)

#3 岡田真太郎　2018年10月12日(金)〜11月10日(土)

VOICE

黒嵜想さん
批評家

「呼び出し、交換」というタイトルで、蕗野幸樹、奥祐司、岡田真太郎それぞれによる展示を連続で行った。３人は、批評家として筆者が活動するなかで偶然に出会った人物である。本展では、さながら発呼者が伝える番号に基づいて回線を交換し連絡する「取次」、電話交換手のように彼らを喩えた。目的の情報を手繰り寄せるなかで、経由した声。情報化された交友関係がストックされ続ける昨今だが、「繋がり」を保持するのは、特定の人物や場所を経由した具体的な往来である。そして往来の反復は、電話交換手の声自体を、経由地でしかなかった場所自体を、愛着の対象にする。筆者にとっては彼らとの出会いはもちろん、HAPSもまた、これであった。

2018後期　企画:谷澤紗和子

「信仰」

「妄想力の拡張」をテーマに作品制作を行う企画者による本企画では、３組の作家による、世界と関わって生きていくための拠り所である「信仰」がもたらす創造性やそれに伴う危うさ、強さと儚さについて再考する作品を展示しました。

#1 碓井ゆい　2018年11月23日(金・祝)〜2019年1月6日(日)

アーティストトーク(碓井ゆい×谷澤紗和子)
2018年11月23日(金・祝)

#2 温田山　2019年1月12日(土)〜2月11日(月)

アーティストトーク(温田山×谷澤紗和子)&
オープニングパーティ
2019年1月12日(土)

「温田山のオールナイトハップスタンプ」
2019年1月26日(土)

#3 谷澤紗和子×藤野可織

2019年2月16日(土)〜3月24日(日)

谷澤紗和子×藤野可織オープニングパーティ
2019年2月16日(土)

VOICE

谷澤紗和子さん
美術作家

時に専門性に固執するが故に、他者への間口が大きく開かれないホワイトキューブの現在があるが、ALLNIGHT HAPSで使用される展示室は、タクシーが花街へ行き交う小路際に、日没と共にむき出しの状態で現れ、通りすがりの道行く人を俄に鑑賞者たらしめる。展示初日にこの道を“たまたま”通りがかった人が、その日彼女に起こった出来事と、展示作品が、思いもよらず重なって見えて立ち尽くしたと話してくれた。会期中にも、そんなことが私達の知らないうちに、知らない誰かに起こっていたのかもしれないと思うと、心が躍る。いつかどこかで、その人たちに“たまたま”出会って、その時の話が聞けるといい。

撮影:平野 愛　写真提供:好書好日

主催事業4

アーティスト×仕事

アーティストだからこそ、
できることがある。

アーティストだからこそ、できることがある。昨年度より始まった支援活動として、これまでに培ってきた芸術家や専門家のネットワークを活かし、芸術家に仕事を依頼したい方とアーティストのための情報提供を行っています。アーティストへの「仕事」の依頼という支援が、新たな創造に結びつくことを期待しています。ウェブサイトでは仕事情報、アーティストの情報登録を受け付けるだけでなく、様々なコンテンツを随時更新しています。

「アーティスト×仕事」ウェブサイトよりコンセプト文

ニューパトロン、ニューアーティスト

閉塞感や社会的な分断が私たちを取り巻いています。文化や芸術は、このような時にこそ、新しいヴィジョン、価値観、世界像を提供することが求められています。しかし、文化産業として高度にシステム化されている現行のアートシステムでは、そのような根源的な芸術の営みが生まれづらい状況になっています。

そこで私たちはアーティストに期待をかける新しい方法論を提案します。 それは、新しいパトロンが新しいアーティストを生み出すというものです。

レオナルド・ダ・ヴィンチは単なる画家ではなく、建築や科学を含めた総合的なアーティストであり、それを支えていたのはパトロンたちでした。現行の美術館やギャラリーとは違う回路で、アーティストが「作品」を成す可能性を想定してください。HAPSはそれを支援する方を募集いたします。

間違ってほしくないのは、このプログラムはアーティストのクリエイティヴィティを部分的に利用することを目的としていません。装飾やデザイン、コンテンツの提供や集客のための視覚的要素の導入などは、アートの道具化でしかありません。そうではなく、クリエイションそのものの必然性を掘り起こしたいのです。閉塞した状況を打破すること、全く新しいヴィジョンを提供すること、無根拠な創造性を擁護すること、自由とは何かを具体的に示すこと。こういった根本的なことを芸術家に求めたいのです。そういったニーズが存することが可視化すれば、それに応えうる芸術家も生まれてくることでしょう。

以上が本プログラムの主旨になります。
主旨自体はいささか理想主義的ですが、運用に際しては実践的なシステムを準備しています。

仕事を依頼したい方

ウェブサイトの「仕事を依頼したい方」のバナーから「仕事情報　登録フォーム」に進み、依頼したい内容、契約形態・報酬などを具体的に登録ください。内容をHAPSで審査した上でアーティストに仕事情報を提供します。

依頼を受けたいアーティスト

ウェブサイトの「依頼を受けたいアーティスト」のバナーから「アーティスト情報 登録フォーム」に進み、自身の活動のジャンル、プロフィール、作品の概要や活動歴を登録ください。HAPSが仕事の情報提供を受け、該当する情報をお知らせします。実際に仕事を受ける際には、依頼者に直接申込をしていただきます。

情報提供の流れ

1. HAPSがアーティストの特性を活かせる仕事情報の掘り起こしを行う
2. 依頼者がHAPSに仕事の情報を提供
3. HAPSが仕事内容を確認、審査
4. 事前にHAPSに登録されたアーティストの中から登録条件をもとに、仕事情報を提供
5. アーティストが依頼主に直接申込を行う

ウェブページ

http://haps-kyoto.com/work/

コンセプトとともにアーティストと支援のあり方を巡る考察の場として、様々な方へのインタビューやエッセイを掲載。随時公開していきます。

2018年度に公開したコンテンツ

見出し／「経済原理」端書き／パンフレット的に「荒野」
（寄稿：橋本聡）

「これからの芸術に、クリエイティブな循環を生む
お金の仕組みを〈Theatre E9 Kyoto〉の目指す第三の道」
一般社団法人アーツシード京都 理事
藤山陽太インタビュー
（インタビュー・構成：島貫泰介）

事例1

「平成30年度 紅葉の名庭 秋の特別公開」パンフレットの制作

京都市産業観光局からの依頼で、「紅葉の名庭　秋の特別公開」のパンフレットにおいて、表紙と中面の地図に猿田真維さんがイラストを描き下ろし、中面の写真を成田舞さんが撮影するなど、リニューアルを図りました。パンフレットは、市内の観光案内所や主要駅等で配布されました。

事例2

人権啓発パネル展「世界人権宣言70周年を迎えて ～人類みんなの宝物～」

京都市文化市民局から依頼があり、京都を拠点に活動するイラストレーター上川敬洋さんとマッチングしました。世界人権宣言をイメージして制作されたパネルが 2018 年 8 月の人権強調月間に合わせたイベントにて展示されました。

VOICE

上川敬洋さん
イラストレーター

京都市の方々と打ち合わせを重ね、展示内容などを相談しながら制作を進め、完成に至ることができました。制作期間が短く不安だったため、制作に集中できるよう、制作進行の方を呼んでいただくことに。HAPSには打ち合わせに参加していただき、京都市の方との連絡も取っていただきました。「人権」という大きく複雑なテーマを多くの人に伝えることは、自分自身の人権に対する認識を改めて考える機会となり、私にとって面白く貴重な経験だったと感謝しています。

HAPS ウェブサイト

相談窓口

アーティストと支える人からの相談を受け付ける窓口です。誰でも気軽にアクセスできるウェブサイトが、直面している問題を解決する第一歩となります。

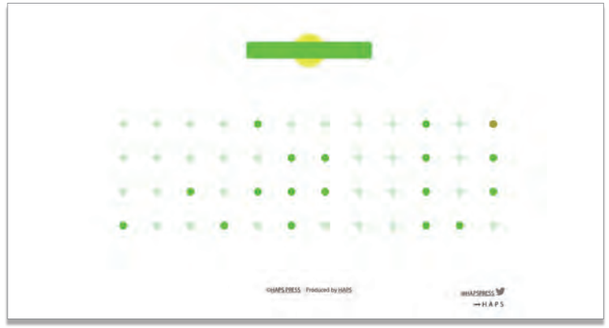
ART Picks

京都市内の展覧会情報を網羅的に提供。現代美術に限らず、オルタナティブな動きも含めて更新し、幅広いジャンルの展覧会・イベントを紹介しています。国内外を問わず閲覧できるように日英バイリンガル表記であることも大きな特徴です。

HAPS PRESS

芸術と社会の関係を実験的に考察していくためのウェブマガジン

HAPSの活動の前提となる条件や事柄を再考し、それをHAPSの活動に還元する役割を持っています。リサーチ、インタビュー、エッセイ、レビューなどが、アーティストや研究者、専門家、市民など様々な立場の人々によって構成されています。「アーティストとは？」、「社会にとってのアートとは？」、「アートをサポートするとは？」という命題が複数の切り口から検証され、それが公開されています。このサイトは、HAPSの活動が常に反省と対話を必要としていることの表れであり、同時に社会一般に広く「アート」をめぐる状況と問題が共有されることを目指しています。



HAPS PRESSでは展覧会レビューを募集しています。

http://haps-kyoto.com/press_writer/

専門的である必要はなく、独自の観点で展覧会のレビューを書いていただける方を広く求めています。まずは、京都市内で見た展覧会のレビューを800字で書いてHAPSまでお送りください。

レビュー掲載箇所：http://haps-kyoto.com/haps-press/exhibition_review/

HAPSスタジオ

HAPSスタジオ

HAPSでは、元小学校の教室をアーティストのスタジオとして活用しています。

HAPSスタジオとは

2012年12月より、京都を拠点に活動していく美術系アーティストのために、元小学校の教室を利用した制作スタジオを提供、現在6教室を運営しています。2011年に閉校した元新道小学校は、東側に名刹建仁寺、北側に京都ゑびす神社、西側に京都五花街の一つ、宮川町と、京都の風情を醸し出す地域にあります。

第7期スタジオ使用者

川田知志

KAWATA Satoshi

1987年大阪府生まれ。2013年京都市芸術大学大学院美術研究科絵画専攻（油画）修了。壁画技法をもとに、展覧会や委託制作を通して都市空間へ働きかける実践を行う。壁画を空間の帰属から切り離し自律させることから、壁画の新しい可能性も模索している。2019年1月、京都市芸術新人賞受賞。2018年4月使用開始。

VOICE

僕は壁に絵を描くことと並行して、壁画表現の新しい方法を模索しています。頭で考えてることが実際に形に現れると、とても嬉しかったり上手くいかなくて悲しかったりします。HAPSスタジオに拠点が移ってから、夢中になってたくさん実践ができました。思い返すとこの一年、新しい出会いで人と関わる機会が増えたり、初めての個展、更には京都市芸術新人賞をもらい、いっそう美術制作で頑張ろうと思った日々でした。今も次の事の準備をしてる最中で、何しようか考えています。

2018 TOPICS

9月にはアートコートギャラリー（大阪）にて個展「Open Room」展を開催。スタジオにて作品を構想・制作した作品が発表されました。

「Open Room」展

会期：2018年9月2日（日）～10月13日（土）
会場：アートコートギャラリー

image：「Open Room」DM／プランスケッチ（提供：アートコートギャラリー）

スタジオ使用者紹介

Homesick Studio

ホームシック スタジオ

写真を扱う4人のアーティスト、成田舞、堀井ヒロツグ、前谷開、守屋友樹による共同スタジオ。写真現像用の暗室やスタジオを共有し、それぞれ写真、映像、テキストなどの作品制作を行う。

（左より 守屋、成田、前谷、堀井）

2018 TOPICS

Homesick Studioメンバーの守屋友樹が、5月に京都にて個展を開催しました。

守屋友樹個展「シシが山から下りてくる」

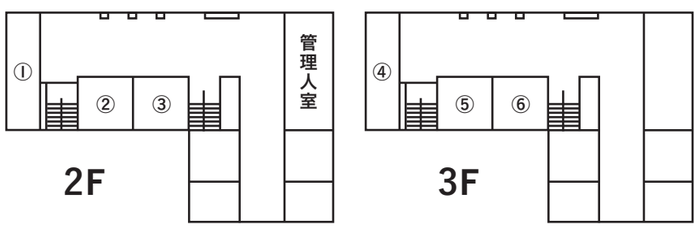
会期：2018年5月4日（金）～5月20日（日）
会場：Gallery PARC

Homesick Studioメンバーの前谷開が、2月からの東京での企画展に出展しました。

「森美術館15周年記念展 六本木クロッシング2019展：つないでみる」

会期：2019年2月9日（土）～5月26日（日）
会場：森美術館（六本木ヒルズ森タワー53階）

HAPSスタジオマップ



2018年度使用者

① 井上亜美
② 中田有美
③ 川田知志
④ 池田剛介
⑤ マイケル・ウィッテル
⑥ Homesick Studio

スタジオ使用者紹介

池田剛介

IKEDA Kosuke

1980 年生まれ。美術作家。2003 年京都造形芸術大学情報デザイン学部卒業。2005 年東京藝術大学大学院先端芸術表現専攻修了。平成 17 年度文化庁新進芸術家在外研修員としてボストン滞在。平成 27 年度ポーラ美術振興財団在外研修員として台北滞在。自然現象、生態系、エネルギーなどへの関心をめぐりながら制作活動を行う。

2018 TOPICS

2月に単著を上梓。3月にはディレクターを務めるアートスペース「浄土複合」（左京区）がオープンしました。

『失われたモノを求めて　不確かさの時代と芸術』
（夕書房）
2011 年～ 2017 年の雑誌への寄稿文に、長編論考の書き下ろしを加えたものです。

スタジオ使用者紹介

マイケル・ウィッテル

Michael WHITTLE

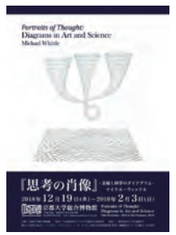
1976年イギリス・ノーサンバーランド生まれ。ブラッドフォード大学で生物学を学んだのち、ロイヤル・カレッジ・オブ・アート修士在籍中、2010年文部科学省国費外国人留学生として訪日。２年間の研究生を経て、2015年京都市立芸術大学大学院博士課程修了。科学と美術の詩的な関係について書いた博士論文『Romantic Objectivism: Diagrammatic Thought in Contemporary Art』で梅原猛賞を受賞。図像学的なシンボルや科学記号を使った複雑で繊細なドローイングやインスタレーションを制作。

VOICE

京都大学での展覧会「思考の肖像」は、3年間のHAPSスタジオでの制作活動の到達点であり、自身にとって今までで最大の個展でした。制作過程では、京都大学物質-細胞統合システム拠点（iCeMS）の方々がHAPSスタジオで私の作品について学び、私も彼らの研究を学ぶためにiCeMSを訪問して、アートとサイエンスを結びつけた新しいドローイングを制作しました。HAPSスタジオのメンバーであることは、私のアーティストとしてのキャリアを発展させ、多くの新たなつながりを作る絶好の機会でした。

2018 TOPICS

ウィッテルが収集した、科学数学分野におけるダイアグラムのコレクションとともに、京都大学iCeMSの研究者の協力を得て制作した、現代美術と科学の融合を表現したドローイングが展示されました。



特別展「思考の肖像」
―美術と科学のダイアグラム―

会期：2018年12月19日（水）～2019年2月3日（日）
会場：京都大学総合博物館　2階企画展示室

中田有美

NAKATA Yumi

1984年奈良県生まれ。2009年京都市立芸術大学美術研究科造形構想専攻修了、2016年京都市立芸術大学美術研究科博士課程（油画）修了。「描く」ことを通して自己、および他者の存在を問うことを目的に作品を制作している。自らが持つ顔面や記憶、言語に規定される「ものの意味」に注目し、それらが生成される様子を平面上に表象言語を用いた独自のシミュレーションをすることで、我々の共有する現実を示そうとしている。

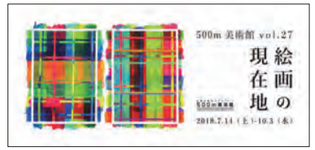
VOICE

学校を出たばかりのお金も場所もない時にこのスタジオがあったことで、働きながら制作をし、その後も続けていく基盤をつくることができました。個人の活動だけでは中々出会えない人たちに定期的に作品を講評してもらえたこともとても励みになりました。3年間ありがとうございました。

2018 TOPICS

500m美術館vol.27
「絵画の現在地」

会期：2018年7月14日（土）～10月3日（水）
会場：札幌大通地下ギャラリー500m美術館
主催：札幌市
参加作家：荻野僚介／笠見康大／佐藤克久／小林麻美／武田浩志／中田有美／西田卓司／野原万里絵／久野志乃



井上亜美

INOUE Ami

1991年宮城県生まれ。東京藝術大学大学院映像研究科修士課程修了。在学中に狩猟をはじめる。猟師として生活する傍ら、狩猟の現場でつぎつぎに起こる出来事をエスノグラフィックな視点で見つめ、自身が出演・演出する手法で映像作品を制作している。作品に、都会で暮らす猟師の奇妙な生活を描いた《猟師の生活》、震災後に猟をやめた祖父を追った《じいちゃんとわたしの共通言語》などがある。

VOICE

３年間、活動をあたたかく見守ってくださり、沢山の人との出会い、特に海外とのつながりを作っていただき、ありがとうございました。今秋に芸術祭「のせでんアートライン」、韓国のAmado Art Spaceにて新作を発表する予定です。

2018 TOPICS

奈良県立大学 現代アート展
「船 / 橋わたす 2018」

会期：2018年10月20日（土）～10月28日（日）
会場：奈良県立大学
主催：奈良県立大学 地域創造学部 西尾研究室
招聘作家：荒木由香里　井上亜美　光岡幸一

2018年度、HAPSが実施した取組を紹介します。

様々な取組

文化芸術による共生社会実現のための基盤づくり事業／
協力事業／地域の中のHAPS

受託事業

文化芸術による共生社会実現のための基盤づくり事業

HAPSでは2018年度に京都市から、「文化芸術による共生社会実現のための基盤づくり事業」を受託、実施しました。
この事業では、文化芸術に備わる特性を活かして、社会的課題の緩和や解決に取組む「文化芸術による社会包摂」の実現をめざし、

①文化芸術による社会包摂に関する市内・他都市の事例調査
②文化芸術による社会包摂について相談するための窓口の開設準備
③芸術家や福祉現場等に文化芸術による社会包摂の事例や効果を伝えるための普及・啓発講座の実施
④文化芸術と社会課題をコーディネートする人材を育成するための施策の企画・検討
⑤文化芸術による社会包摂の事例となるモデル事業の企画・実施

を行いました。
とくに、普及・啓発講座として実施した「共生社会実現のためのアーツマネジメント入門」は、公開講座として、京都精華大学との連携のもと、全国から芸術と社会課題をつなぐ先進的な取組を行っている方を京都にお招きし、その実践についてお話しいただきました（→P31）。
また、本年度のモデル事業として【ノガミッツ プロジェクト】を実施しました。本プロジェクトでは、アーティストの山本麻紀子さんが、コーディネーターのあごうさとしさんらと高齢者福祉施設「東九条のぞみの園」を訪問し、施設利用者･職員、地域の方と協働のもと、施設の中庭をおすそわけの植物でつくる「ノガミッツ ガーデン」、そして施設入居者との対話をもとにした作品の制作を行いました（→P32-33）。
2月には、こうした１年間の取組を振り返る『文化芸術による共生社会実現のための基盤づくり事業』成果報告会を行い、本事業のディレクター、モデル事業コーディネーター、参加アーティストらが、本年度実施した取組の成果について発表、検証しました。

京都文化芸術都市創生計画推進フォーラム

「文化芸術による共生社会実現のための基盤づくり事業」成果報告会

日時：2019 年 2 月 22 日（金）19:00 ～ 21:00
会場：ひと・まち交流館 3 階 第 5 会議室
登壇者：あごうさとし（劇作家・演出家・（一社）アーツシード京都代表理事）、遠藤水城（東山 アーティスツ・プレイスメント・サービス代表）、小笠原邦人（東九条のぞみの園施設長）、小泉朝未（大阪大学文学研究科博士後期課程）、中川眞（大阪市立大学特任教授）、山本麻紀子（アーティスト）

文化芸術による共生社会実現のための基盤づくり事業

共生社会実現のためのアーツマネジメント入門

社会的課題や困難と向き合い、社会とのつながりを再構築していく「社会包摂型」のアーツマネジメントに重点を置いて紹介する連続講座を実施。福祉施設や病院といった、これまでアートとは疎遠と思われてきた現場でのアーツマネジメントで活躍する実践家、研究者をお招きし、基礎知識や活動について発表いただき、共生社会の実現に向けてアートの果たしうる役割を参加者と考える機会をつくりました。
京都精華大学との連携講座では、芸術活動の過程で図らずも損なわれてしまいがちな人権について考える講座を実施。また、芸術家とその労働環境について考えるフォーラムも開催しました。

第1回「アーツマネジメント—社会と関わる現場をつくる」
講師：雨森信（Breaker Project ディレクター）

第2回「アートと社会包摂—アートの役割」
講師：中川眞（大阪市立大学特任教授）

第3回「芸術実践と人権—マイノリティ、公平性、合意について」概論
講師：山田創平（京都精華大学准教授）

第4回「芸術実践と人権—マイノリティ、公平性、合意について」対談
講師：鷹野隆大（写真家）、あかたちかこ（大阪人間科学大学非常勤講師）、山田創平（京都精華大学准教授）

第5回「ホスピタル・アートの現在」
講師：森合音（NPO法人アーツプロジェクト理事長）

第6回フォーラム「芸術と労働」
登壇：白川昌生（美術家）、吉澤弥生（共立女子大学教授）、三輪晃義（弁護士）
司会：樋口貞幸（アート･アドミニストレーター）

第7回「表現未満—都市変革のオルタナティブ」
講師：久保田翠（NPO法人クリエイティブサポートレッツ理事長）

文化芸術による共生社会実現のための基盤づくり事業

モデル事業「ノガミッツ プロジェクト」

「ノガミッツ プロジェクト」は、アーティストの山本麻紀子さんが、本事業コーディネーターのあごうさとしさんらとともに、高齢者福祉施設「東九条のぞみの園」を訪問し、利用者・入居者、職員と対話を重ね構想し、展開した事業です。
本事業では、のぞみの園の中庭で実施する「ノガミッツ ガーデン」と、アーティストと施設利用者との対話にもとづく「作品制作」の２つの取組を実施しました。
これら２つの取組は、精神と環境面の双方から、人と生きる場の関係性を考える試みとして、互いに響きあうものでした。
多くの方が関わったガーデンの土で植物が育ち、新しい出会いも生まれました。育まれるいのちの循環の中に、それぞれの物語や記憶、今この瞬間の生の感覚が接続されることで、施設に関わる方々がより豊かに過ごせる場所になるのではないでしょうか。

※ノガミッツ ：のぞみのその→「の」が3つ→ノガミッツ　から山本麻紀子さんが名付けました。

ノガミッツ ガーデン

地域の方々からの「おすそわけ」の植物によってつくられる「東九条のぞみの園」の中庭。山本さんが日常生活の中で「植物のおすそわけ」から周囲との新たな関係を見出した体験をもとに、陽の光や風が心地よく入り、人々が集う場所として、職員・利用者、 地域の方と協働で庭づくりを行いました。

みんなでお庭づくりの日

日時：2019年2月24日（日）14:00〜16:00
場所：東九条のぞみの園1階 中庭

VOICE

山本麻紀子さん
アーティスト

東九条での生活の中でたくさんの気づきがあった頃、HAPSから今回の事業のお話をいただきました。
のぞみの園には頻繁に通わせていただけたので、普段から考えていたことを起点に自然な形で作品制作へと展開することができたと思います。お庭作りをしながら、施設に関わる方々と重ねた対話は、時間や場所（地域）について考えるきっかけになりましたし、たくさんの刺激を受けたことで、今までやったことのない手法で作品制作に取組みたいと思うようになりました。また、展覧会という場をいただけたことで、プロジェクトをどう作品化させるかについて深く考えることができました。展覧会を見に来て下さったたくさんの方々からのフィードバックをいただくことができ、新たな出会いや繋がりができたことは、今後の自身の活動の励みにもなり頼もしい力となっています。

展覧会 山本麻紀子
「いつかの話 あの人の風」

山本麻紀子さんが施設の入居者と対話を重ねる中で抽出したモチーフを中心に、様々な形で作品を展開し、展覧会「いつかの話 あの人の風」として、元山王小学校で展示しました。作品は、地域に根ざす草花から色を採集し、糸や布を染める・土をこね、成形し、焼成するといった過程を通じ、人だけでなく自然との対話の中で制作しました。本展は、歴史の中で共生社会の実現に向け取組を続けてこられた場所での新たな表現を通し、人や、人だけではない様々なものと関わり、生きることについてあらゆる人と一緒に考え続けようとするものといえるでしょう。

会期：2019年2月17日（日）〜24日（日）
会場：元山王小学校 北校舎1階教室
コーディネーター：あごうさとし
協力：社会福祉法人 カトリック京都司教区カリタス会
総合福祉施設 東九条のぞみの園／洛東化成工業株式会社／（一社）アーツシード京都
制作協力：小西由悟（作庭協力）／金サジ（作品撮影）／中村裕太（陶制作協力）／アカシアの会 西川しげ乃（朗読）／真下武久（録音・編集）／Kim Song Gi・中谷利明・入江拓巳（記録）／
デザイン：永戸栄大
主催：京都市

オープニング

日時：2019年2月17日（日）17:00〜19:00
会場：元山王小学校

トークイベント

日時：2019年2月23日（土）15:00〜16:30
会場：京都市地域・多文化交流ネットワークセンター内 希望の家ホール
登壇者：西川勝（臨床哲学者）、小笠原邦人（東九条のぞみの園施設長）、山本麻紀子（アーティスト）
司会：あごうさとし（本事業コーディネーター）

VOICE

小笠原邦人さん
「東九条のぞみの園」施設長

対話から生まれたオブジェは、ご利用者が記憶を蘇らせ、涙を流してもらう程の力がありました。その涙は、若い頃に戻った喜びと若い世代への激励とも感じ、大変、感動しました。また、もう一つの取組である「お庭づくり」は、施設と地域の関係をも豊かにしてくれました。当方の設立にご尽力いただいた地域への感謝と、これからの想いを見事に表現していただいています。芸術における作品やその発想は、大切なものが周囲に理解され、認めてもらうきっかけになります。私も芸術の力に感謝しながら心強さも感じています。芸術は、ケアをしている者へのケアと言えるのではないでしょうか。今後も芸術の業と寄り添い歩んでいただきたいと切に願っております。

協力事業

2018年度、HAPSが関わった企画の一部を紹介します。

事例1

京都市
地域・多文化交流フェスティバル
第7回東九条春まつり

トークショー「芸術と東九条の出会い」

「東九条春まつり」にて行われた、トークショー「芸術と東九条の出会い」に HAPS 事務局の岡が登壇。2017 年度に HAPS が東九条エリアで関わった 2 つの催し『はじめまして こんにちは 今私は誰ですか？』と『おとと おどりの まつりごと』について、参加したアーティストとともに、東九条での出会いと作品制作について語りました。

開催日：2018 年 4 月 21 日（土）
登壇者：あごうさとし（一般社団法人アーツシード京都代表理事）、
倉田翠（『はじめまして こんにちは 今私は誰ですか?』演出 / 出演）、
きたまり（『おとと おどりの まつりごと』総合演出 / 出演）、
村木美都子（東九条まちづくりサポートセンター）、岡永遠
会場：京都市 地域・多文化交流ネットワークセンター
主催：京都市 地域・多文化交流ネットワークサロン

事例2

「親の年金をつかってキャバクラ SWING EXPO」展トーク

京都市北区の NPO 法人スウィングが行なっている様々な活動を紹介する展覧会が、同時代ギャラリーにて開催されました。会期中に行われたトークイベントに、HAPS 事務局長の藏原が聞き手として参加しました。

日時：2018 年 8月4日（土）18:00〜20:00
会場：同時代ギャラリー
主催：NPO 法人スウィング
登壇者：木ノ戸昌幸（NPO法人スウィング理事長）、坂田佐武郎、成田舞（Neki inc.）、藏原藍子

事例3

ロームシアター京都×京都芸術センター U35創造支援プログラム"KIPPU" akakilike「はじめまして こんにちは、今私は誰ですか?」

2017 年度に HAPS が関わった京都市「文化芸術で人が輝く社会づくりモデル事業」で制作・上演した舞台作品が、若手アーティストの発掘・育成のための制作支援プログラム "KIPPU" に採択されました。演出家・振付家・ダンサーの倉田翠さんが、自身が主宰をつとめる akakilike の作品として再構成し、ロームシアター京都で再演しました。

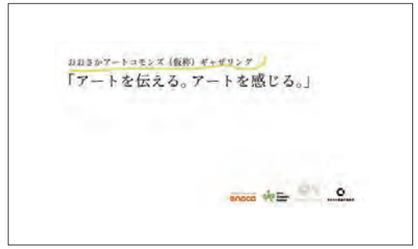
開催日：2019 年 2 月 15 日（金）〜 2 月 16 日（土）
会場：ロームシアター京都ノースホール
主催：akakilike
共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、
京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、京都市

事例4

おおさかアートコモンズ（仮称）ギャザリング「アートを伝える。アートを感じる。」

大阪の芸術文化のハブとなっている大阪府立江之子島文化芸術創造センター [enoco] が、2018 年度より試行している「おおさかアートコモンズ（仮称）」のトークイベントに HAPS 事務局長の藏原が登壇しました。

日時：2019 年 2 月 15 日（金）19:00 〜 20:45
会場：enoco 地下 1F カフェ「CORAL PARLOR enoco」
モデレーター：大島贊都（アーツサポート関西チーフプロデューサー）
スピーカー：梅田哲也（アーティスト）、
山中俊広（インディペンデント・キュレーター／大阪アーツカウンシル 部会委員）、藏原藍子
コーディネーター：高坂玲子（大阪府立江之子島文化芸術創造センター [enoco]）
主催：大阪府立江之子島文化芸術創造センター [enoco]



事例5

カリタス会勉強会

東九条のぞみの園（→ P30）などの福祉施設、児童館などを運営する社会福祉法人カトリック京都司教区カリタス会の職員向けの勉強会が開催され、HAPS はじめ今年度の「文化芸術による共生社会実現のための基盤づくり事業」の関係者が、1 年間の取組について説明しました。また 2017 年度京都市「文化芸術で人が輝く社会づくりモデル事業」にご協力いただいた「故郷の家・京都」の金井忠司さんから、昨年度の事業を終えての感想もお話しいただきました。

開催日：2019 年 1 月 25 日（金）
会場：京都市 地域・多文化交流ネットワークセンター
登壇者：あごうさとし（一般社団法人アーツシード京都代表理事）、山本麻紀子（アーティスト）、
金井忠司（故郷の家・京都 総務課長）、吉岡久美子（京都市文化市民局 文化芸術都市推進室
文化芸術企画課 計画推進担当課長）、藏原藍子、石井絢子（HAPS）他
主催：社会福祉法人カトリック京都司教区カリタス会

地域の中のHAPS

2018年度、HAPSでは様々な地域主催の
イベントやお祭りなどに協力・参加しました。

ハロウィンパーティー
新道児童館にて（10 月）

新道学区民体育の集い
元新道小学校にて（10 月）

六原フェスタ
東山開睛館にて（11 月）

ゑびす神社 神幸祭
ゑびす神社～東山区各所にて（5 月）

新道学区餅つき大会
元新道小学校にて（11 月）

資料編

2018年度事業実績／アンケート調査結果

2018年度HAPS事業実績

相談受付数
アーティストから——94件
支える人から———116件
計——————210件

物件マッチング
コーディネート実現数——4件
シェアスタジオへの
入居実現数——————3件

広報
新聞—22件　その他—1件
雑誌——2件　計——47件
web—22件

インターネット
HAPSウェブサイトアクセス数—180,838件
Facebookフォロワー数——————2,686件
Twitterフォロワー数——————3,397件

視察
————10件

主催事業

タイトル	開催日	会場	ゲスト	主催等
第 7 期スタジオ使用開始	2018/4/1 〜	HAPS スタジオ		
GLOBAL ART TALK 009 サスキア・ボス「キュレーティングはジャーナリズムか、それともストーリーテリングかフィクションか?」	2018/5/7	京都造形芸術大学人間館 NA102 教室	サスキア・ボス	京都造形芸術大学大学院
キュレーター招聘　サスキア・ボス氏	2018/5/16	HAPS スタジオなど市内スタジオ	サスキア・ボス	
GLOBAL ART TALK 010 島袋道浩「アーティストとして生きることとは」	2018/6/11	京都造形芸術大学人間館 NA102 教室	島袋道浩	京都造形芸術大学大学院
GLOBAL ART TALK 011 シュレヤス・カルレ「いまここにいること、そしてどこにもいないこと」	2018/7/10	京都造形芸術大学人間館 NA207 教室	シュレヤス・カルレ	京都造形芸術大学大学院
キュレーター招聘　シュレヤス・カルレ氏	2018/7/19	HAPS スタジオ	シュレヤス・カルレ	
ALLNIGHT HAPS 2018 前期「呼び出し、交換」	2018/7/31 〜 11/10	HAPS オフィス 1 階	蕗野幸樹、奥祐司、岡田真太郎、黒嵜想	助成：公益財団法人 朝日新聞文化財団
GLOBAL ART TALK 012 ヒーマン・チョン「様々な言い訳」	2018/10/26	京都造形芸術大学人間館 NA102 教室	ヒーマン・チョン	京都造形芸術大学大学院
GLOBAL ART TALK 013 手塚美和子「アートをタイムレスにする方法：荒川修作とマドリン・ギンズにみるレガシー、財団、保存について」	2018/11/19	ロームシアター京都ノースホール	手塚美和子	京都造形芸術大学大学院
キュレーター招聘　手塚美和子氏	2018/11/21 〜 22	HAPS スタジオなど市内スタジオ	手塚美和子	
ALLNIGHT HAPS 2018 後期「信仰」	2018/11/23 〜 2019/3/24	HAPS オフィス 1 階	碓井ゆい、温田山、藤野可織、谷澤紗和子	助成：公益財団法人 朝日新聞文化財団
GLOBAL ART TALK 014 マイケル・ジュー「塩に変わる汗：境界域で自然を減速させる」	2018/12/17	京都造形芸術大学人間館 NA102 教室	マイケル・ジュー	京都造形芸術大学大学院
遠藤水城トーク「芸術の時間と闘争の持続」	2019/3/20	京都芸術センター ミーティングルーム	遠藤水城	京都芸術センター

OUR SCHOOL

タイトル	開催日	会場	ゲスト	主催
うっかり母ちゃんの にほんばなし 親子でたのしむお茶と絵本	2018/4/28	HAPS オフィス 1F	福田地子	福地空果梨堂
報告会 @ HAPS カオス * ラウンジ新芸術祭 2017　市街劇「百五〇年の孤独」	2018/4/28	HAPS オフィス 1F	亀山隆彦	小栢可愛
うっかり母ちゃんの にほんばなし 親子でたのしむお茶と絵本	2018/6/23	HAPS オフィス 1F	福田地子	福地空果梨堂
うっかり母ちゃんの にほんばなし 親子でたのしむお茶と絵本	2018/8/25	HAPS オフィス 1F	福田地子	福地空果梨堂
トーク「コミュニティ・アーカイブをつくろう!」	2018/9/27	HAPS オフィス 1F	甲斐賢治、北野央、佐藤知久	京都市立芸術大学芸術資源研究センター
うっかり母ちゃんの にほんばなし 親子でたのしむお茶と絵本	2018/10/27	HAPS オフィス 1F	福田地子	福地空果梨堂
0歳からの伝統文化! うっかり母ちゃんのにほんばなし	2018/12/22	HAPS オフィス 1F	福田地子	福地空果梨堂
0歳からの伝統文化! うっかり母ちゃんのにほんばなし	2019/1/26	HAPS オフィス 1F	福田地子	福地空果梨堂
0歳からの伝統文化! うっかり母ちゃんのにほんばなし	2019/3/30	HAPS オフィス 1F	福田地子	福地空果梨堂

協力事業等

タイトル	開催日	会場	協力内容	主催等
京都市 地域・多文化交流フェスティバル 第 7 回東九条春まつり	2018/4/21	京都市 地域・多文化交流ネットワークセンター	広報協力、トーク参加	京都市 地域・多文化交流ネットワークサロン
punto “OPEN STUDIO”	2018/5/4 〜 5/6	punto	広報協力	punto
OPEN STUDIO × 4	2018/5/12 〜 5/13	ASK-Atelier Share Kyoto + Alt Space POST/ ウズマキ スタジオ / 上軒下七 スタジオ /Ink	広報協力	Alt Space POST
守屋友樹個展「シシが山から下りてくる」	2018/5/4 〜 5/20	Gallery PARC	スタジオ使用（守屋）	Gallery PARC
「Tips」展	2018/6/1 〜 7/16	京都芸術センター	スタジオ使用（池田）	宮坂直樹、京都芸術センター
テラス計画レコメンド「日本のアートサイト」展	2018/6/15 〜 7/8	テラス計画	事業紹介、広報物配架	札幌駅前通まちづくり株式会社
akakilike「家族写真」	2018/6/22 〜 24	d- 倉庫	スタジオ使用（前谷）	akakilike
アーツマネジメント – 社会と関わる現場をつくる	2018/7/12	キャンパスプラザ京都　4 階第 3 講義室	企画制作	京都市 文化芸術による共生社会実現のための基盤づくり事業
500m 美術館 vol.27「絵画の現在地」	2018/7/14 〜 10/3	札幌大通地下ギャラリー 500m 美術館	スタジオ使用（中田）	札幌市
アートと社会包摂 – アートの役割	2018/7/19	キャンパスプラザ京都　4 階第 4 講義室	企画制作	京都市 文化芸術による共生社会実現のための基盤づくり事業
「15 年」展	2018/7/3 〜 8/10	アートコートギャラリー	スタジオ使用（川田）	アートコートギャラリー
「ASK_7 人の作家」展	2018/7/21 〜 8/11	ART OFFICE OZASA	広報協力	ART OFFICE OZASA 企画：Alt Space POST
「親の年金をつかってキャバクラ SWING EXPO」	2018/7/31 〜 8/12	同時代ギャラリー	広報協力、トーク参加	NPO 法人スウィング
タイルとホコラとツーリズム season5《山へ、川へ。》	2018/8/17 〜 9/2	Gallery PARC	広報協力	「タイルとホコラとツーリズム」実行委員会
芸術実践と人権 – マイノリティ、公平性、合意について	2018/8/25	ウィングス京都 2 階セミナー室	企画制作	京都市 文化芸術による共生社会実現のための基盤づくり事業
「Open Room」	2018/9/2 〜 10/13	アートコートギャラリー	スタジオ使用（川田）	アートコートギャラリー
清原遥 個展「祈りのかたちに似ている」	2018/9/11 〜 23	KYOTO ART HOSTEL kumagusuku	企画、広報協力	企画：川久保ミオ
ホスピタル・アートの現在	2018/10/11	京都芸術センターミーティングルーム 2	企画制作	京都市 文化芸術による共生社会実現のための基盤づくり事業
船／橋わたす 2018	2018/10/20 〜 28	奈良県立大学	スタジオ使用（井上）	奈良県立大学地域創造学部西尾研究室
第 17 回 AAF 戯曲賞受賞記念講演 シティⅢ	2018/10/26 〜 28	愛知県芸術劇場　小ホール	京都での宿泊場所紹介	愛知県芸術劇場
フォーラム「芸術と労働」	2018/11/23	京都芸術センター フリースペース	企画制作	京都市 文化芸術による共生社会実現のための基盤づくり事業
変動する庭／変動させる庭	2018/11/3 〜 2/23	各地（無鄰菴、平安神宮、他）	スタジオ使用（池田）	京都芸術センター、山内朋樹
表現未満−都市変革のオルタナティブ	2018/11/29	京都芸術センターミーティングルーム2	企画制作	京都市 文化芸術による共生社会実現のための基盤づくり事業
「思考の肖像」- 美術と科学のダイアグラム -	2018/12/19〜2019/2/3	京都大学総合博物館	スタジオ使用（ウィッテル）	京都大学総合博物館
池田剛介「崩れと残欠」	2019/1/5 〜 3/10	ペクソン・アーツ・京都	スタジオ使用（池田）	ペクソン・アーツ・京都
akakilike「はじめまして　こんにちは、今私は誰ですか?」	2019/2/15 〜 16	ロームシアター京都 ノースホール	広報協力	akakilike
展覧会 山本麻紀子「いつかの話 あの人の風」	2019/2/17 〜 24	元山王小学校	企画制作	京都市 文化芸術による共生社会実現のための基盤づくり事業
A-Lab Exhibition Vol.17「街と、その不確かな壁」と…。	2019/2/16 〜 3/31	あまらぶアートラボ A-Lab	スタジオ使用（川田）	尼崎市
六本木クロッシング 2019 展：「つないでみる」	2019/2/9 〜 5/26	森美術館	スタジオ使用（前谷）	森美術館
おおさかアートコモンズ（仮称）ギャザリング「アートを伝える。アートを感じる。」	2019/2/15	enoco 地下 1F カフェ「CORAL PARLOR enoco」	広報協力、トーク参加	大阪府立江之子島文化芸術創造センター [enoco]
京都文化芸術都市創生計画推進フォーラム「文化芸術による共生社会実現のための基盤づくり事業」成果報告会	2019/2/22	ひと・まち交流館　3 階 第 5 会議室	企画制作	京都市 文化芸術による共生社会実現のための基盤づくり事業
オルタナティブ・アートスクール・（チラシ）フェア vol.1	2019/3/8 〜 9	AIT ルーム（代官山）	広報物配架	NPO 法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT ／エイト]

トーク等への参加

タイトル	開催日	会場	主催等
京都市 地域・多文化交流フェスティバル 第 7 回東九条春まつりトークショー「芸術と東九条の出会い」	2018/4/21	京都市 地域・多文化交流ネットワークセンター	京都市 地域・多文化交流ネットワークサロン
「ASK_7 人の作家」展トークイベント	2018/7/28	ART OFFICE OZASA	ART OFFICE OZASA　企画：Alt Space POST
「親の年金をつかってキャバクラ SWING EXPO」展トーク	2018/8/4	同時代ギャラリー	NPO 法人スウィング
「アーツ・プロジェクトスクール @3331」×「京都 :Re-Search」京都合宿	2018/10/5	京都社会福祉会館	文化庁、（一社）コマンド N
The 13th International Conference of Asian Arts Management in Vietnam 2019	2019/1/12	Six Space, Ha Noi	International Conference of Asian Arts Management
「HAPS のアーティストサポート　スタジオ紹介から制作・発表の支援まで」	2019/1/17	京都市立芸術大学　新研究棟2階　共同講義室2	京都市立芸術大学キャリアデザインセンター
カリタス会勉強会	2019/1/25	京都市 地域・多文化交流ネットワークセンター	社会福祉法人カトリック京都市教区カリタス会
おおさかアートコモンズ（仮称）ギャザリング「アートを伝える。アートを感じる。」	2019/2/15	enoco 地下 1F カフェ「CORAL PARLOR enoco」	大阪府立江之子島文化芸術創造センター [enoco]
17th URP Academic Forum "Empowering Arts and Cultural Organization"	2019/3/8	Universitas Gadjah Mada, Yogyakarta	大阪市立大学都市研究プラザ、カジャマダ大学文化学部、インドネシア芸術大学

掲載

タイトル	掲載日	媒体	分類	発行元
ALLNIGHT HAPS 2017 後期「接触の運用」#4 柳瀬安里	2018/4/15	artscape	web	大日本印刷株式会社
芸術家と制作依頼者　橋渡し 若手支援・東山の HAPS が新事業	2018/4/19	京都新聞	新聞	京都新聞社
呼吸のダイアローグ	2018/4/20	京都芸術センター通信	配布物	京都芸術センター
GLOBAL ART TALK 009 「キュレーティングはジャーナリズムか、それともストーリーテリングかフィクションか?」	2018/4/23	京都造形芸術大学イベント情報	web	京都造形芸術大学
GLOBAL ART TALK 010「アーティストとして生きることとは」	2018/6/4	京都造形芸術大学イベント情報	web	京都造形芸術大学
GA TALK 011「いまここにいること、そしてどこにもいないこと」	2018/6/30	京都造形芸術大学イベント情報	web	京都造形芸術大学
東山 アーティスツ・プレイスメント・サービス（HAPS）	2018/7/2	美術手帖	web	美術出版社
講座「アーツマネジメント〜社会と関わる現場をつくる」	2018/7/6	京都新聞	新聞	京都新聞社
講座「アートと社会包摂 - アートの役割」	2018/7/13	京都新聞	新聞	京都新聞社
貧困、孤立、災害 ... 社会的困難に芸術の役割は	2018/7/19	京都新聞	新聞	京都新聞社
ふらっと夜に行きたいミュージアム＆ギャラリーメモ	2018/7/23	SAVVY	雑誌	京阪神エルマガジン社
ALLNIGHT HAPS 2018 前期「呼び出し、交換」	2018/8/7	美術手帖	web	美術出版社
ALLNIGHT HAPS 2018 前期「呼び出し、交換」	2018/8/9	京都で遊ぼう ART	web	京都文化推進委員会
共生社会実現のためのアーツマネジメント入門	2018/8/16	朝日新聞	新聞	朝日新聞社
京日記	2018/08/30	京都新聞	新聞	京都新聞社
ALLNIGHT HAPS 2018 前期「呼び出し、交換」	2018/9/14	JDN	web	株式会社 JDN
オールナイト HAPS「呼び出し、交換」	2018/9/19	京都新聞	新聞	京都新聞社
共生社会実現のためのアーツマネジメント入門第5回	2018/9/28	讀賣新聞	新聞	讀賣新聞社
洛中洛外	2018/10/4	京都新聞	新聞	京都新聞社
連続講座「共生社会実現のためのアーツマネジメント入門」	2018/10/5	京都芸術センターウェブサイト	web	京都芸術センター
GLOBAL ART TALK 012 ヒーマン・チョン「様々な言い訳」	2018/10/6	京都造形芸術大学イベント情報	web	京都造形芸術大学
オールナイト HAPS「呼び出し、交換」	2018/10/12	京都新聞	新聞	京都新聞社
ALLNIGHT HAPS 2018 後期「信仰」	2018/10/25	ARTLOGUE	web	株式会社アートローグ
フォーラム「芸術と労働」	2018/10/26	ARTLOGUE	web	株式会社アートローグ
GLOBAL ART TALK 013 手塚美和子「アートをタイムレスにする方法：荒川修作とマドリン・ギンズにみるレガシー、財団、保存について」	2018/11/5	京都造形芸術大学イベント情報	web	京都造形芸術大学
ALLNIGHT HAPS 2018 後期「信仰」	2018/11/8	美術手帖	web	美術出版社
「信仰」の危うさや儚さを 3 組のアーティストが考える。「ALLNIGHT HAPS 2018」の後期展示をチェック	2018/11/8	美術手帖	web	美術出版社
オールナイト HAPS「信仰」（インスタレーション）	2018/11/27	京都新聞	新聞	京都新聞社
生活の中にある政治性、隠し味に　碓井ゆい展	2018/12/1	京都新聞	新聞	京都新聞社
GLOBAL ART TALK 014 マイケル・ジュー「塩に変わる汗：境界域で自然を減速させる」	2018/12/5	京都造形芸術大学イベント情報	web	京都造形芸術大学
オールナイト HAPS「信仰」（木版画）	2019/1/12	京都新聞	新聞	京都新聞社
芸術新人賞に8人・1 組	2019/1/28	京都新聞	新聞	京都新聞社
山本麻紀子「いつかの話 あの人の風」	2019/2/1	ウェブ版美術手帖	web	美術出版社
芸術と福祉をつなぐ実践から生まれた展覧会。山本麻紀子が「いつかの話 あの人の風」を京都の元小学校で開催	2019/2/1	ウェブ版美術手帖	web	美術出版社
高齢者施設の庭に「花のおすそわけ」入居者と地域 アートで結ぶ　南区の美術家女性	2019/2/13	京都新聞	新聞	京都新聞社
オールナイト HAPS「信仰」（小説・インスタレーション）	2019/2/15	京都新聞	新聞	京都新聞社
展覧会 - いつかの話あの人の風	2019/2/15	京都新聞	新聞	京都新聞社
展覧会「山本麻紀子『いつかの話 あの人の風』」	2019/2/16	リビング京都	新聞	京都リビング新聞社
アーティスト・山本麻紀子さんのこと	2019/2/17	OURS. KARIGURASHI MAGAZINE	web	UR 都市機構
高齢者の「思い出」作品に　南区・元山王小　美術作家が対話、制作	2019/2/18	京都新聞	新聞	京都新聞社
文化芸術による共生社会実現のための基盤づくり事業成果報告会	2019/2/18	京都新聞	新聞	京都新聞社
「文化芸術による共生社会実現のための基礎づくり事業」成果報告会	2019/2/20	art space co-jin pick up	web	art space co-jin
高齢者×美術作家　人生掘り下げアートの実り	2019/2/21	朝日新聞	新聞	朝日新聞社
遠藤水城トーク「芸術の時間と闘争の持続」	2019/3/3	京都芸術センターウェブサイト	web	京都芸術センター
無数の意味に絡めとられた女性像を解きほぐす「信仰」#3 谷澤紗和子×藤野可織展	2019/3/4	好書好日	web	朝日新聞社
アートスクエア	2019/3/9	京都新聞	新聞	京都新聞社
展覧会レビュー　オールナイトハップスタンプ　版木としての展覧会場	2019/3/25	月刊アートコレクターズ	雑誌	生活の友社

アンケート調査結果

調査・分析：山田創平（京都精華大学人文学部准教授）

東山 アーティスツ・プレイスメント・サービス（HAPS）の事業について、ニーズの把握、プログラムの効果評価を試みるべくアンケート調査を実施したのでその結果を報告する。本年度（2018）アンケートは２種類実施された。ひとつは市民の皆さんに調査票を配布した「市民調査」であり、もうひとつは京都市内の芸術系大学に在学する皆さんに調査票を配布した「学生調査」である。なお本年度は分析の過程において中西勝彦氏（京都大学大学院教育学研究科博士前期課程）の協力を得た。

アンケート実施期間と実施方法

市民調査：2018年11月（質問紙を六原学区で催されるイベントにて配布、回収した）

大学調査：2018年9月から2018年12月まで（質問紙を各大学に配布の上、学内で取りまとめHAPSが回収した）

アンケート配布回収状況

市民調査：配布数 300票・回収数 184票（昨年度は223票）

大学調査：配布数 775票・回収数 391票（昨年度は354票）

※2015年度はアンケート調査の実施会場の関係で20歳未満の回答数が急増したため、経年比較が難しくなった。従ってここでは「20歳未満」の回答を除いた補正値を採用する。
※本報告書では、各カテゴリの％を小数点以下第2位で四捨五入しているため、加算値が100ちょうどにならない場合がある。同様に、各図の円グラフで表記している％は小数点以下第1位で四捨五入しているため、加算値が100ちょうどにならない場合がある。

「大学調査」結果

属性

大学調査（2018）では、嵯峨美術大学、京都造形芸術大学、京都精華大学、京都市立芸術大学の4大学からデータを得た。調査は本年度（2018）で7年目である。
本年度の回答数は391件であった（昨年度調査は354件）。回答者の基本的な属性は次の通りである。結果は有効回答数を母数とした割合で算出し、各項目の有効回答数は「n=○○」の形で表記する。

- 回答者のジェンダー構成（n=388）は、78.6%が女性、21.4%が男性であった。
- 回答者の年齢構成（n=371）は、平均が22.92歳、最年少は20歳、最高齢は64歳であった。
- 各大学の割合（n=391）は、図1のとおりである。京都市立芸術大学（40.4%）が最も多く、嵯峨美術大学（12.5%）が最も少なかった。
- 回答者は、学部学生が71.2%、大学院生が28.8%であった（n=385）。
- 回答者の出身地（n=390）は、京都（府市）が23.1%、京都以外（国外含）が76.9%であった。
- 各大学の回答者に占める京都府市出身者の割合は以下の通りである（n=390）。
- 嵯峨美術大学の回答者のうち京都府市出身者の割合：28.6%（昨年度は24.6%）
- 京都造形芸術大学の回答者のうち京都府市出身者の割合：17.5%（昨年度は8.6%）
- 京都精華大学の回答者のうち京都府市出身者の割合：16.0%（昨年度は19.4%）
- 京都市立芸術大学の回答者のうち京都府市出身者の割合：28.7%（昨年度は28.0%）

卒業後の制作意思

「卒業後はアーティストとして制作を継続していこうと思いますか（Q３-１）」との問に対する回答（n=391）は図2のとおりであった。この項目に関して「そう思う」「ややそう思う」を【積極層】、「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「そう思わない」を【消極層】とした場合、各大学の比率は以下のようになる。

- 嵯峨美術大学（n=49）　積極層71.4%：消極層28.6%（昨年度47.4%：52.6%）
- 京都造形芸術大学（n=103）　積極層48.5%：消極層51.5%（昨年度62.5%：37.5%）
- 京都精華大学（n=81）　積極層55.6%：消極層44.5%（昨年度44.3%：55.7%）
- 京都市立芸術大学（n=158）　積極層50.6%：消極層49.4%（昨年度45.8%：54.2%）

卒業後の京都での制作意思

卒業後もアーティストとして活動しようと考えている学生、あるいはまだ迷っている学生（Q3-1 で「そう思う」「ややそう思う」「どちらとも言えない」と回答した学生）に「活動拠点」について以下の質問を行った。
「卒業後も京都を拠点に制作を継続したいと思いますか（Q3-2）」との問に対する回答は図3のとおりであった。「制作場所は居住場所とは別に必要だと思いますか（Q3-3）」との問に対する回答は図4のとおりであった。「制作をしていく場所で、地元の方の理解は必要だと思いますか（Q3-4）」との問に対する回答は図5のとおりであった。
上記3項目について「そう思う」「ややそう思う」の合計割合について経年による変化を追うと以下のようになる。

「卒業後も京都を拠点に制作を継続したいと思いますか（Q3-2）」（n=307）
48.2%（2013）→41.9%（2014）→43.3%（2015）→42.9%（2016）→32.5%（2017）→43.7%（2018）
「制作場所は居住場所とは別に必要だと思いますか（Q3-3）」（n=296）
66.0%（2013）→53.2%（2014）→55.2%（2015）→57.1%（2016）→56.9%（2017）→56.4%（2018）
「制作をしていく場所で、地元の方の理解は必要だと思いますか（Q3-4）」（n=290）
74.3%（2013）→66.5%（2014）→69.9%（2015）→68.8%（2016）→67.2%（2017）→63.5%（2018）

京都での作品発表意思

「京都で作品の発表をしたいと思いますか（Q4）」との問に対する回答は図6のとおりであった。「そう思う」「ややそう思う」の合計割合について経年による変化を追うと以下のようになる。
「京都で作品の発表をしたいと思いますか（Q4）」（n=388）
63.2%（2013）→60.1%（2014）→56.1%（2015）→56.8%（2016）→55.7%（2017）→57.7%（2018）

専門家との接触意思

「大学を卒業した後も専門家（キュレーター等）に作品を見せる機会を得たいと思いますか（Q5）」との問に対する回答は図7のとおりであった。「そう思う」「ややそう思う」の合計割合について経年による変化を追うと以下のようになる。
「大学を卒業した後も専門家に作品を見せる機会を得たいと思いますか（Q5）」（n=386）
55.1%（2013）→59.7%（2014）→57.5%（2015）→54.9%（2016）→53.4%（2017）→60.1%（2018）

HAPSの認知

「HAPS（東山 アーティスツ・プレイスメント・サービス）をご存知ですか（Q6）」との問に対する回答は図8のとおりであった。本項目で「名前も事業内容も知っている」「名前は知っている」「聞いたことがある気がする」と回答した学生の割合は以下の通りである。
「HAPSをご存知ですか（Q6）」（n=388）
42.9%（2013）→48.6%（2014）→50.0%（2015）→51.6%（2016）→48.1%（2017）→48.9%（2018）

「京都での活動意思」と「出身地」の関係

「卒業後も京都を拠点に制作を継続したいと思いますか（Q3-2）」と「出身地（京都府市／京都以外）の関係をみると、京都府市出身者（n=75）の54.7%（昨年度50.8%）が「卒業後も京都で活動したい」と考えている一方で、京都以外出身者（n=231：うち、国外出身者は29名）で「卒業後も京都で活動したい」と考えている学生は39.8%（昨年度27.4%）である。出身地（たとえば「実家の有無」）が「卒業後も京都で活動したい」という意思と関係していることがわかる。

図1
調査票に占める各大学の割合

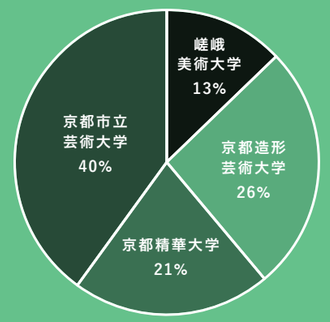


図2
卒業後はアーティストとして
制作を継続していこうと思いますか

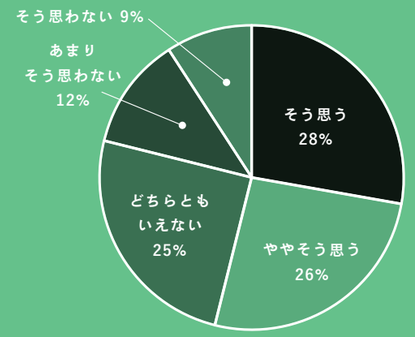


図3
卒業後も京都を拠点に制作を
継続したいと思いますか

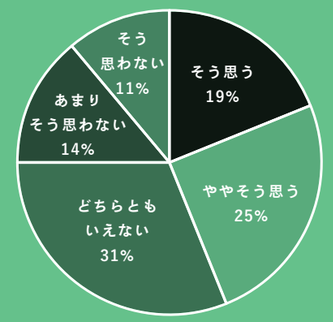


図4
制作場所は居住場所とは別に
必要だと思いますか

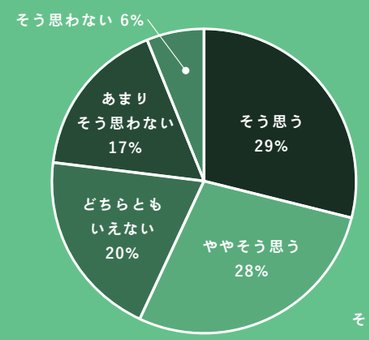


図5
制作をしていく場所で、
地元の方の理解は必要だと思いますか

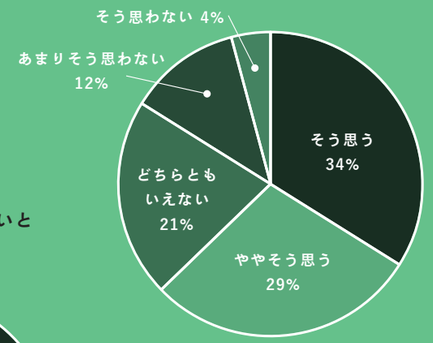


図6
京都で作品の発表をしたいと
思いますか

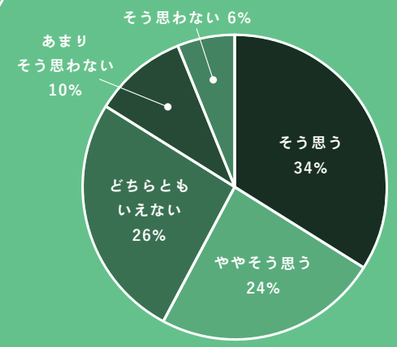


図7
大学を卒業した後も
専門家に作品を見せる機会を
得たいと思いますか

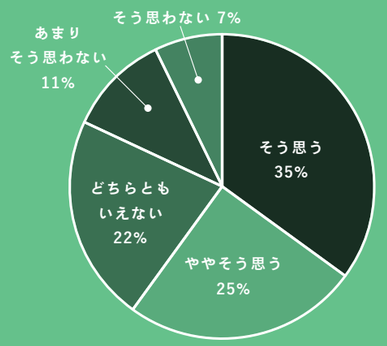
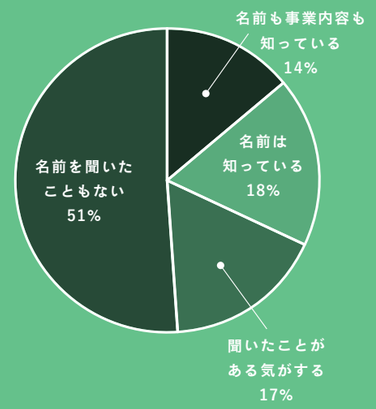


図8
HAPSを知っていますか
（大学生のHAPS認知）



まとめ

昨年度と比べて基本属性に大きな変化はない。大学生の「HAPS認知」も一定の水準を維持している。また、京都府市出身者と京都以外出身者の間で、「卒業後も京都で活動したい」と答える割合が大きく異なる。これも例年と大きく変わらない結果となった。京都の芸術系大学の学生が卒業後に京都で活動しない場合、出身地が京都外であることから、居住地と制作場所の確保ができずに活動をあきらめている可能性が示唆される。

また「制作場所は居住場所とは別に必要だと思いますか（Q3-3）」、「制作をしていく場所で、地元の方の理解は必要だと思いますか（Q3-4）」の3項目に関しては、「そう思う」「ややそう思う」の合計割合には大きな変化は見られない。

「市民調査」結果

属性

市民調査は本年度（2018年度）で7年目である。
本年度の回答数は184件であった。回答者の基本的な属性は次の通りである。全体的な傾向は昨年とほぼ同様である。以下では、有効回答数を「n=○○」で表記し、有効回答数の合計を100%としている。

- 回答者のジェンダー構成（n=183）は、59.0%が女性、40.4%が男性、その他0.5%であった。
- 回答者の年齢構成（n=182）は図9のとおりである。本年度は昨年度より「20歳未満」が多く3割以上となった。
- 住所（n=182）はアンケート実施学区内が60.4%、学区外が34.6%、市外が4.9%であった。

前述の通り、本年度はアンケート調査の実施会場の関係により、「20歳未満」の回答者が34.1%と多かった。以下の各項目では、全年代の回答割合と「20歳未満」を除いた回答割合（以下、「補正値」）を併記する。なお、補正値の回答数は120件であり、1～3の割合は以下の通りである。

1. 補正値のジェンダー構成（n=119）は、女性が58.8%、男性が41.2%であった。
2. 補正値の年齢構成（n=120）は、20代が14.2%、30代が8.3%、40代が22.5%、50代が15.0%、60代が13.3%、70代以上が26.7%であった。
3. 補正値の住所（n=119）は、アンケート実施学区内が63.9%、学区外が30.3%、市外が5.9%であった。

以上の通り、補正値のジェンダー構成と住所は全年代のものとほぼ変わらない。

HAPSの認知（n=184）

HAPSの認知は図10のとおりである。認知は重要な指標だが2012年度で52.8%、2013年度で64.2%、2014年度で76.3%、2015年度で64.7%（※）、2016年度で74.4%、2017年度で62.3%、本年度は53.3%（補正値：74.2%）であった。

HAPSオフィスの認知（n=183）

HAPSオフィスの認知は図11のとおりである。2012年度で44.4%、2013年度で58.5%、2014年度で63.2%、2015年度（※）で49.4%、2016年度で61.3%、2017年度で51.4%、本年度は44.8%（補正値：64.7%）となっている。

地域におけるHAPSの必要性（n=179）

2016年度から地域におけるHAPSの必要性を問う新項目を加えている。HAPSの「認知」は単に「知っている」という状況を示すデータだが、ここではHAPSに対する「評価」が問われる。結果は図12のとおりである。63.2%（補正値：71.6%）が必要と回答している。

文化芸術指向性（n=181）

2016年度から地域に住む方々の文化芸術に対する指向性（興味・関心）について問う新項目を加えている。結果は図13のとおりである。昨年度同様、アンケートに回答した住民の90.6%（補正値：90.7%）が文化芸術に関心を持っていることがわかる。

学区内に若手芸術家は必要か（n=184）

芸術家の必要性について「非常に思う」「やや思う」を「必要性認識」としてまとめる。京都での「芸術家必要性認識」は図14のとおりである。2013年度で93.8%、2014年度で90.4%、2015年度で91.2%、2016年度で86.3%、2017年度で86.0%、本年度は79.3%（補正値：85.8%）であった。

若手芸術家支援意思（n=184）

2016年度から地元にいる芸術家を支援しようと思うか否かについて問う新項目を加えている。「非常に思う」「やや思う」を「支援意思」としてまとめる。結果は図15のとおりである。アンケートに回答した住民の71.8%（補正値：76.6%）が、地元にいる芸術家を支援したいと思っていることがわかる。

若者必要性（n=176）

2016年度から若手芸術家を含む、若者全体について、地域におけるその必要性を問う新項目を加えている。地域における若者の必要性について「非常に思う」「やや思う」を「必要性認識」としてまとめる。結果は図16のとおりである。アンケートに回答した住民の89.7%（補正値：93.9%）が、地元に若者が必要だと考えており、この傾向は昨年度同様である。

多様性指向（n=175）

2016年度から地域に多様な人々が集まることに関して、良いことだと思うか否かについて問う新項目を加えている。「非常に思う」「やや思う」を「多様性指向」としてまとめる。結果は図17のとおりである。「若者必要性」が9割近かったのとは対照的に、「地域に多様な人々が集まることは良いことである」と回答した住民は54.9%（補正値：54.9%）にとどまった。「どちらとも言えない」との回答が3割を超えており、昨年度と同様に地域住民の戸惑いが感じられる結果となった。

観光客指向性（n=176）

2016年度から地域に観光客が訪れることに関して、良いことだと思うか否かについて問う新項目を加えている。「非常に思う」「やや思う」を「観光客指向性」としてまとめる。結果は図18のとおりである。「地域に観光客が訪れることは良いことである」と回答した住民は46.1%（補正値：36.9%）であり、おおきく低下した昨年度と同様の傾向が見られた。この項目も地域住民の戸惑いが感じられる結果となった。

2016年度と2018年度の比較

前述の通り2016年度に新たな調査項目を加えた。新項目を加えての調査は本年度で3度目となる。これまで紹介したデータは、数値をそのまま集計した記述統計によるものだったが、ここでは推測統計を用い、2016年度と2018年度を比較して実質的な変化があったのかどうかを検討する。

《方法》

2016年度のデータと2018年度のデータでは、年齢構成が大きく異なっている。前述の通り、2018年度は「20歳未満」の回答者が30%を超えていた。一方、2016年度の「20歳未満」は6%であった。この差を是正するため、本分析では「20歳未満」を除いたデータを使用する。また、2016年度と2018年度の変化について、学区内で比較するため「学区内」の回答のみを分析対象とした。以上の条件に当てはまる回答数は、2016年度は106件、2018年度は76件であった。

分析には、質問項目の中から5件法での回答を求めた【6.HAPSの必要性】、【7.文化芸術指向性】、【8.若手芸術家必要性】、【9.若手芸術家支援意思】、【10.若者必要性】、【11.多様性指向】、【12.観光客指向】の7項目を用いる（番号はアンケートの項目番号）。分析にあたっては、5件法の各項目を得点化した上で、平均値の比較を行った。得点化は「とても思う」を5点、「やや思う」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり思わない」を2点、「まったく思わない」を1点とした。

《結果》

2016年度と2018年度の各項目の平均値の差を、対応のないt検定を用いて分析した。その結果、平均値間に統計的に有意な差が認められたのは、【6.HAPSの必要性】（（t（172）=1.82, p<.10）と【12.観光客指向】（（t（168）=2.38, p<.05）の2つであった。いずれの項目も2016年度と比べて2018年度の結果が下がっていた。

以下、具体的に見ていく。【6.HAPSの必要性】は、2016年度の平均値が「4.3」であったが、2018年度は「4.07」とやや下がっている。ただし、この変化は10%水準の有意傾向であること、そして差も-0.23ポイントと大きいとは言えない。一方、【12.観光客指向】については、2016年度が「3.73」であったが、2018年度は「3.33」と、0.4ポイント低下していた。その他の項目に関しては、統計的に有意な差は認められなかった。

これらの結果は以下のように概括できる。2016年度と2018年度を比較すると、2018年度は「六原学区にもっと観光客が増えたほうがいい」と思う人がはっきりと減少している。また、「六原学区にHAPSは必要だ」と思う人はわずかに減少傾向にある。

図9
年齢

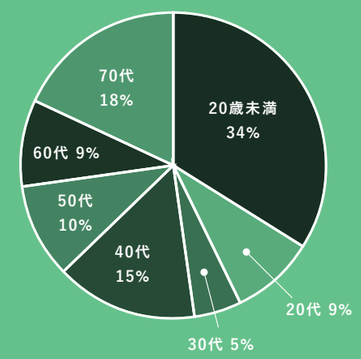


図10
HAPSを知っていますか
（市民のHAPS認知）

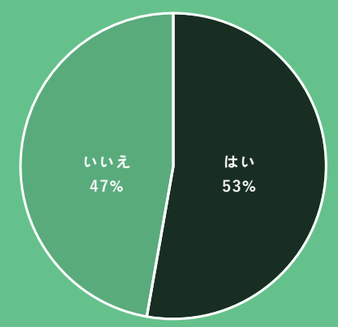


図11
HAPSの事務所を
知っていますか
（市民のHAPSオフィス認知）

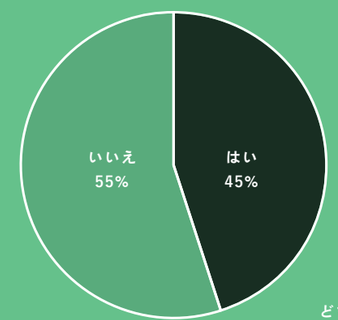


図12
学区にHAPSは
必要だと思いますか
（HAPSの必要性）

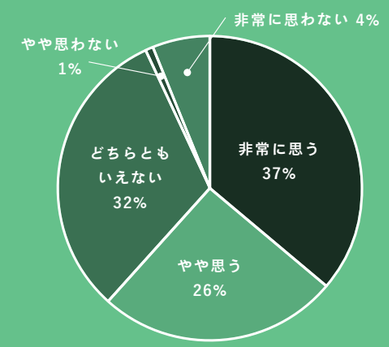
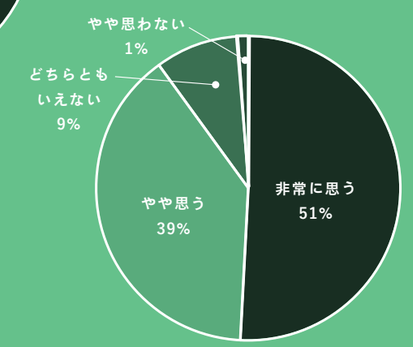


図13
文化や芸術
（音楽・絵画・舞台・映画など）が
好きですか（文化芸術指向性）



まとめ

本年度は回答者の3割以上が「20歳未満」だったため、補正値も併せて記載した。補正値でみると、HAPSの知名度も、事務所の認知度も例年と大きく変わらない。

一方で、2016年度から新項目を加えたが、今年度の調査においてもこれらの項目において市民の「戸惑い」がみられた。その傾向は以下のようにまとめることができる。まずアンケート回答者の多くが「文化芸術が重要」だと考え、「地元にいるアーティストを支援したい」と考えている。また地域に「若手芸術家を含む若者」が「必要」だと考える人の割合も高い。この傾向は2016年度以来一貫している。しかしながら、「地域に多様な人々が集まることを是とする割合」は、2018年度において、2016年度と昨年度よりも低下し、アンケート回答者の6割を切った。また「観光客の訪問を是とする人々の割合」は昨年度の4割から、本年度は補正値で35%程度と低下した。これらの結果を詳しく検証するため、推測統計を用いた分析を試み、2016年度と2018年度のデータを比較した。

その結果、「観光客の訪問を是とする人々の割合」は、ここ2年

図14
学区に芸術家は必要だと思いますか
（芸術家の必要性）

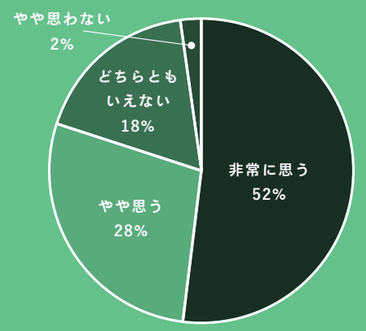


図15
近所に若手芸術家が移住してきたら、
積極的に彼らを支援しようと思いますか
（芸術家支援意思）

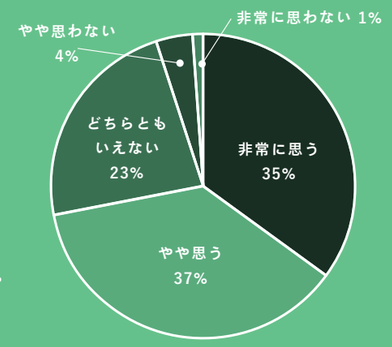


図16
学区にもっと若者が
住んだほうがいいと思いますか
（若者必要性）

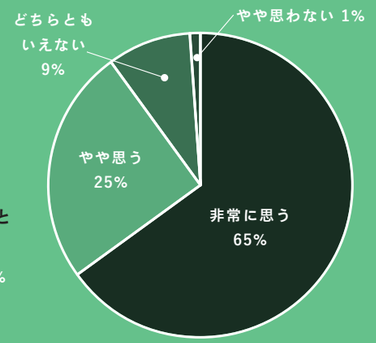


図17
学区に、外国人など異なる文化を
もった人々がもっと住んだほうがいいと
思いますか（多様性指向）

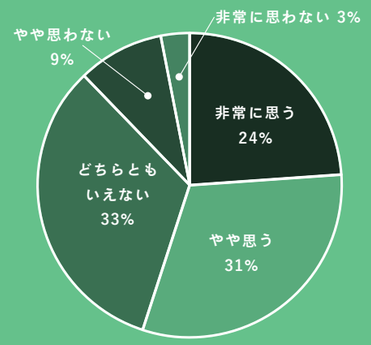
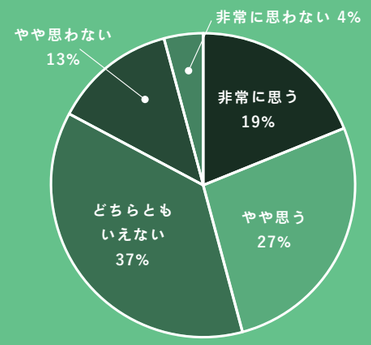


図18
学区にもっと観光客が
増えたほうがいいと
思いますか（観光客指向性）



で統計的に有意に減少していることが確認された。また、「学区にHAPSが必要だと思う人の割合」もわずかに減少傾向にあった。

以上をまとめると、昨年度と同様に文化芸術が重要であり、若手芸術家を支援したいと考える人が多い一方で、観光客指向は2016年から低下し続けている。これは「観光客」によって起こるであろう地域社会の変化に対する強い戸惑いの表明かもしれない。また、HAPSが学区内に必要と思う人たちも減少傾向にあるが、この結果は、地域における「芸術家の必要性」「芸術家支援意思」が経年的にいまだ高水準であることをふまえると、そのまま地域におけるHAPSの必要性の低下を示すものと捉えないほうがよいと思われる。HAPSの活動成果が地域の人たちと未だ十分に共有できていないのかもしれないし、逆に地域の人たちの期待が年々高まっている結果かもしれない。いずれにせよこれらのデータからはHAPSの活動とその成果を地域の人たちに伝えていくことの重要性、HAPSと地域社会とのコミュニケーションの重要性がうかがわれる。

左から櫻岡聡、石井絢子、岡永遠、藏原藍子、遠藤水城、埴美智子、沢田朔

平成30年度文化庁 文化芸術創造拠点形成事業
京都市「若手芸術家の居住・制作・発表の場づくり」事業

HAPS 事業報告書 2018年度

発行日　2019 年3 月31 日

発行元　東山 アーティスツ・プレイスメント・サービス（HAPS）実行委員会
企画・編集　HAPS 実行委員会事務局
編集　松永大地
デザイン　吉田健人、金原由佳（bank to LLC.）
写真　賀集東悟、金サジ、小檜山貴裕、中谷利明、成田舞、前谷開、守屋友樹
印刷　有限会社修美社
協力　石塚源太、井上亜美、小笠原邦人、上川敬洋、川田知志、黒嵜想、
谷澤紗和子、手塚美和子、中田有美、マイケル・ウィッテル、
山田創平、山本麻紀子（敬称略）

東山 アーティスツ・プレイスメント・サービス（HAPS）
〒605-0841 京都市東山区大和大路通五条上る山崎町339 番地
339 Yamazaki-cho, Higashiyama-ku, Kyoto 605-0841, JAPAN
E-MAIL info@haps-kyoto.com
TEL 075 525 7525　FAX 075 525 7522
http://haps-kyoto.com

文化庁

2018年度実行委員会

実行委員長
遠藤水城 キュレーター

実行委員
井上えり子 京都女子大学家政学部生活造形学科准教授
加須屋明子 京都市立芸術大学美術学部教授
勝冶真美 京都芸術センタープログラムディレクター
後藤創平 京都新聞編集局運動部記者
後藤結美子 京都市美術館学芸課学芸員
佐藤知久 京都市立芸術大学芸術資源研究センター専任研究員／准教授
菅谷幸弘 六原自治連合会事務局長
中村英樹 京都市東山区役所地域力推進室まちづくり推進課長
福永敏三 新道自治連合会 会長
松本泰章 嵯峨美術大学芸術学部造形学科教授
ヤノベケンジ 京都造形芸術大学美術工芸学科教授
山田創平 京都精華大学人文学部准教授
吉岡久美子 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課計画推進担当課長

アドバイザー
建畠 晢 京都芸術センター館長／多摩美術大学学長
椿 昇 京都造形芸術大学美術工芸学科長
島本 浣 京都精華大学名誉教授
名和晃平 アーティスト
高嶺 格 アーティスト
小山登美夫 小山登美夫ギャラリー株式会社　代表取締役
松尾 恵 MATSUO MEGUMI + VOICE GALLERY pfs / w 代表
吉岡 洋 京都大学こころの未来研究センター特定教授
潮江宏三 京都市美術館館長
富永茂樹 京都大学名誉教授
村上圭子 京都市副市長
（2019年3月現在 順不同、敬称略）

事務局
石井絢子　岡永遠　藏原藍子　櫻岡聡　沢田朔　埴美智子